勿凝学問 362

ロイド・ジョージの the Budget Day
100 年前のイギリスでも思い出して遊ぶしかない日本の閉塞

2011 年 2 月 27 日

慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

これも、ＨＰからの引っ越し版。

僕は、ロイド･ジョージとチャーチルのことを考える時、チャーチルが国会で行った、ロイド･ジョージへの追悼演説を思い出す。

From Winston Churchil's tribute in Parliament to David Lloy George, the 'cottage bred' boy of Llanystumdwy, Prime Minister of Great Britain. 29 March 1945 in the House of Common
As a man of action, resource and creative energy, he stood, when at his zenith, without a rival. He was the greatest Welshman which that unconquerable race has produced since the age of the Tudors. Much of his work abides, some of it will grow greatly in the future and those who come after us will find the pillars of his life's toil upstanding, massive and indestructible･･･The greater part of our fortunes in peace and war were shaped by this one man.
あなたが成し遂げた仕事の多くは存続し、 そのいくつかは、大きく育ち、 われわれに続く未来の人々は、 あなたの成した仕事というものが、 頑強で、堂々としていて、そして壊しがたいものであることに気づくであろう

ウェッブ夫妻たちが租税方式を唱える中、ロイド･ジョージは、ドイツから社会保険方式をイギリスに導入した。そしてイギリスの社会保険は大きく育ち、彼に続く未来の人々は、それが壊しがたいものであることに気づくことになる。それは、日本でも同じである。

2 月 24 日のＨＰへの書き込み。

まぁ、今は、政治は政治家に任せて、自分は自分のことをやっていればすむというような平和な時ではないから、自分でしっかりと、彼らの言葉を直接聞くというコストくらいは負担しなきゃな。面倒だけど、仕方がない。妙な媒体を通してではなく、しばらくは合理的無知であるのを我慢して、自分でしっかりと政治に関わらなければならないほどに、今は、平時ではない。まったくもって、困ったもんだ。
昨日も、党首討論があったし、今のところ毎日、いろいろとみておいて損をしない議論が行われているみたいだ。

- 衆議院インターネット審議中継
- 参議院インターネット審議中継

昔、ロイド･ジョージのひ孫のロバート･ロイド･ジョージが書いた、David and Winston: How a Friendship Changed History を読んでいる時、ちょっと感動したシーンがあった。ウィンストン・チャーチルはウェストミンスター寺院と同じ敷地内にある聖マーガレット教会で結婚するんだけど、結婚式の当日、新郎側の控え室にいたチャーチルは、狭い部屋の中を行ったり来たりしながら、ぶつぶつとスピーチの練習をしていた。それをみていたロイド･ジョージが、自分の結婚式の日くらいは、スピーチの練習はやめとけよと、チャーチルに言う。
これを読んだ時、僕は、議会制民主主義をとりまくいろんなことを、なるほどっと納得した気がしたもんだ。日本は似て非なるものを運営しているな。イギリスの議会制民主主義を少しでもまねするためにも、やはり、良い演説をした政治家は評価してあげなきゃな。そういう思いもあって、僕は、谷垣さんの代表質問を、ここでとりあげたり、彼の演説の中身を吟味している様子もなく、「解散」というキーワードを検索して数えただけのような論評を批判していたわけだ。

ところで、昔、僕が、ロイド･ジョージが、育ち、晩年を過ごして、今は彼のお墓もある、ウェールズのとある町（ｽﾗﾑｽﾂｳﾑﾃﾞｰというウェールズ読みの町）で、数日を過ごしながら、ロイド･ジョージの晩年の家に付随する図書館で調べ物をしたり本を読んだり、彼が演説をしたという鉱山の坑道のなかを探検したり、ついでにターナーが描いたウェールズの風景の中を散策したりしながら遊んでいたある日――図書館に、ロバート・ロイド･ジョージがやってきた。そこで、僕は、彼の本の中にある写真を、僕の本に載せる許可をもらったわけである。それが、Ⅲ巻序章の 17 頁にある次の写真。

1909年4月29日，Budget Day.
People's Budget が入った Red Box をかかえて the House of Commons へ向かうデイヴィッド・ロイド・ジョージと，同行するウィンストン・チャーチル。当日，ロイド・ジョージの Budget Speech は4時間半に及ぶ。

この予算演説の日の午前中、行方が分からない蔵相のロイド･ジョージを、首相のアスキスは、いらいらしながら「どこにいったんだぁ」と心配するんだよね。そこに、ロイド･ジョージが、ゴルフバッグを抱えて「やぁ」と言ってゴルフ場から帰ってくる。その後、グラッドストーン蔵相の頃から使われていた Red Box に予算演説を入れて、チャーチルと一緒に国会へ向かうシーンが、上の写真。そして、この予算こそが人民予算と呼ばれるものであり、イギリスに社会保障を誕生させる予算なわけで、下院で通ったこの予算は、上院で否決され、アスキス首相は、人民予算の成立を期して下院を解散する！――しびれるねぇ。。。僕が、日本の政治は実につまらんと言う理由もわかるだろぉ。政治ってのは、わくわく感を与えてくれても罰はあたらんはずなのに(￣。￣)ボソ...。
ついでに言っておけば、後に、ロイド･ジョージは第1次世界大戦時の首相となり、チャーチルは第2次世界大戦時の首相となる。おまけに言っておけば、チャーチルが師匠とあおぐロイド･ジョージは、靴屋の叔父さんに育てられ、その家はめちゃくちゃ小さい。一方、

チャーチルは、周囲 32 キロほどのブレナン・パレスで生まれた超お坊ちゃん。僕は、オクスフォードにあるチャーチルの生家を訪れた翌日に、ウェールズにあるロイド・ジョージの育った家を訪れた、唯一の日本人じゃないかなっと思っていたりもする。